

(様式1) 実施報告書

1 応募者情報

(1) 応募者団体情報

団体名	熊本市
-----	-----

(2) 都道府県・政令指定都市からの指定の有無及び連携（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

①都道府県・政令指定都市からの指定の有無

(応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載) ○指定の有無 有・無 ○指定の内容
--

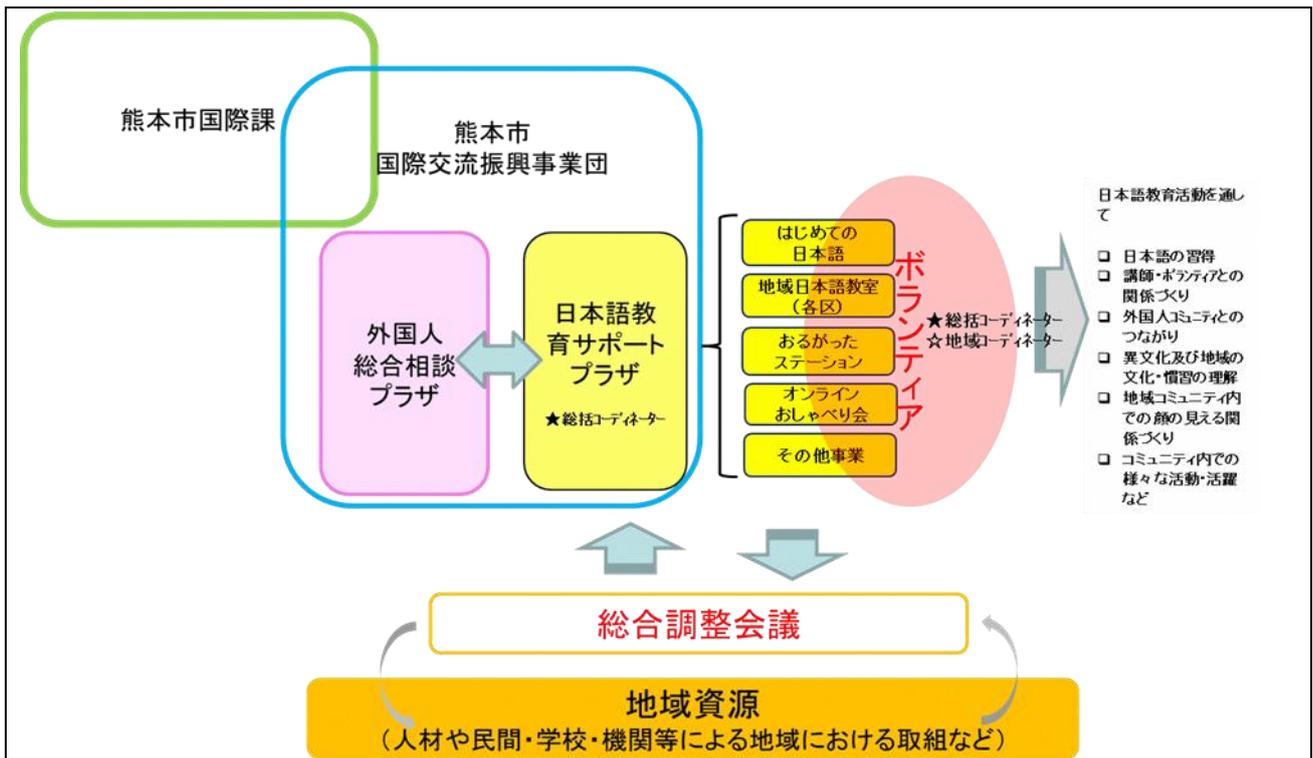
②都道府県・政令指定都市との具体的な連携

(応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載)
--

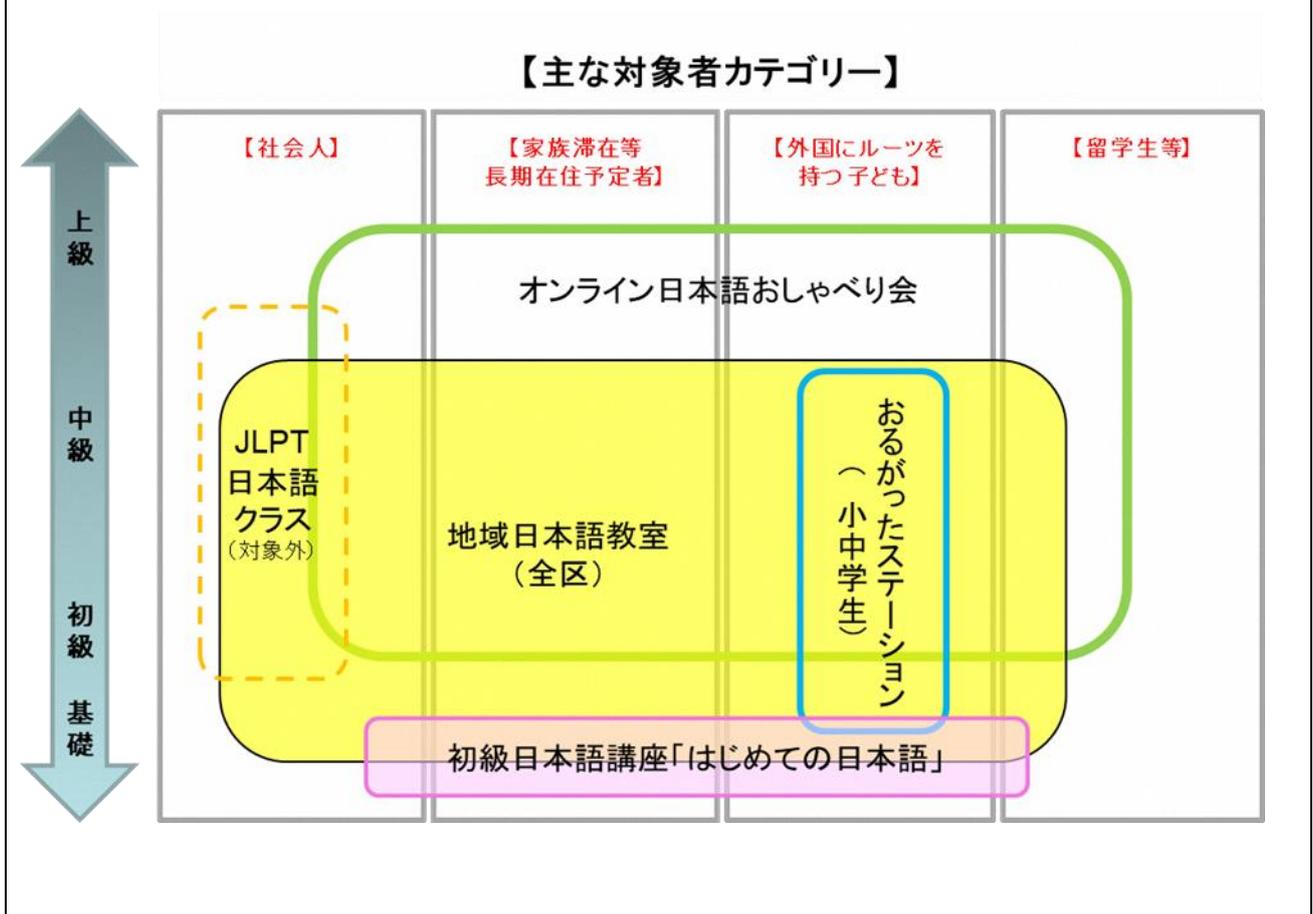
2 事業の概要

(1) 全体概要

①事業の名称	熊本市における地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業
②目的等	
1 目的 (1) 外国人住民が生活に必要な日本語を習得するための支援 国籍、在留資格、生活スタイルなどが多様化する外国人住民に対して日本語学習に関する情報や機会の提供ができる体制づくりを行う。また、日本人住民との交流や相互理解を通して、外国人住民が基本的な生活ができる程度の日本語能力を習得できるよう、地域日本語教室を運営する。 (2) 「やさしい日本語」によるコミュニケーションを通して日本人住民が外国人住民と支え合う関係づくり 地域に住む日本人住民も「やさしい日本語」を用いて、外国人住民とコミュニケーションを図ることにより、外国人住民が地域活動にも積極的に参加することが可能となる体制づくりを行う。 上記を通じて、住民一人ひとりが活躍できる多文化共生の地域づくりを行い、熊本市国際戦略にも掲げる「誰もが住みやすい、訪れやすい、活動しやすいまち」となることを目指す。	
2 本事業を通じて構築を目指す体制の全体像 【現在の状況：図示も可】	



(図2) 日本語教育メニュー



【構築を目指す体制：図示も可（上記に構築する体制を追記）】

熊本にほんご教育プラザの役割（概略図）

：令和3年11月に熊本市国際交流会館2階に設置。以下のとおり、熊本市国際戦略に基づき、市域の地域日本語教育の体制づくりを推進するもの。



(2) 令和5年度事業の概要

①事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日（12カ月間）
②前年度までの年次計画における進捗状況（新規応募団体は記載不要）	
<p>【令和2年度】</p> <p>令和2年度には地域日本語教育に関する意見や助言をいただく総合調整会議の設置、地域日本語教育推進を担う日本語教育の専門知識を持つ総括コーディネーター2名、地域日本語教育コーディネーター3名を配置し、教室運営及び各教室間の連携ネットワークを構築した。また熊本市で唯一の地域日本語教室空白地域であった南区に地域日本語教室を開設し、熊本市内5区全てにおいて地域日本語教室にアクセスできる体制を構築した。</p> <p>【令和3年度】</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けた令和3年度には日本語学習・活動の機会を継続するために、通常の日本語教室活動にオンラインを取り込み、対面での教室活動休止の間も、学習や活動の継続ができる体制を構築した。オンライン活動に不安を持つボランティアを対象にオンライン操作についての研修を行った。また熊本にほんご教育プラザを開設し、日本語教育・学習に関する相談対応、日本語学習情報や日本語学習教材情報などをホームページにて情報提供の強化に努めた。</p> <p>【令和4年度】</p> <p>令和4年度には本事業の中間振り返りを実施し、成果と課題の把握に努めた。また NPO 法人外国から来た子ども支援ネットくまもと、熊本県立大学の協力を得て、新たに就学前児童及びその保護者を対象にした日本語指導、生活指導を行う「おるがったキッズ」を開設し、就学前の外国籍児童が日本語や学校生活等を学ぶ場を提供した。日本語教育を行っている大学と連携し、日本語教育実践の場として地域日本語教室を活用</p>	

したインターン受入を積極的に行い、大学との連携強化に努めた。外国人住民数が多い中央区大江に於いて、校区自治会関係者向けに「やさしい日本語」講座を開催し、「やさしい日本語」の普及啓発に努めた。

③前年度までの成果と課題（新規応募団体は記載不要）

【成果】

- 熊本市内5区全ての区に核となる地域日本語教室を開設。
- 熊本にほんご教育プラザを会館内に開設し、日本語教育情報収集・配信強化、相談体制強化に努めた。
- NPO 法人外国から来た子ども支援ネットくまもとや熊本県立大学、熊本保健科学大学と協力し、外国ルーツの子ども達の居場所作りも兼ねた就学前児童等対象の日本語教室として「おるがったキッズ」を開設した。

【課題】

- 日本語教育専門家との連携強化
- 多様化する国籍、在留資格、生活スタイルにも対応する日本語学習機会の提供
- 日本語教育参照枠 B1 レベルを目指すカリキュラムの対応
- 地域（区役所・校区自治会等）との連携強化
- 地域での日本語教育推進のキーパーソンとなるコーディネーター・サポーター育成

④令和5年度の目標

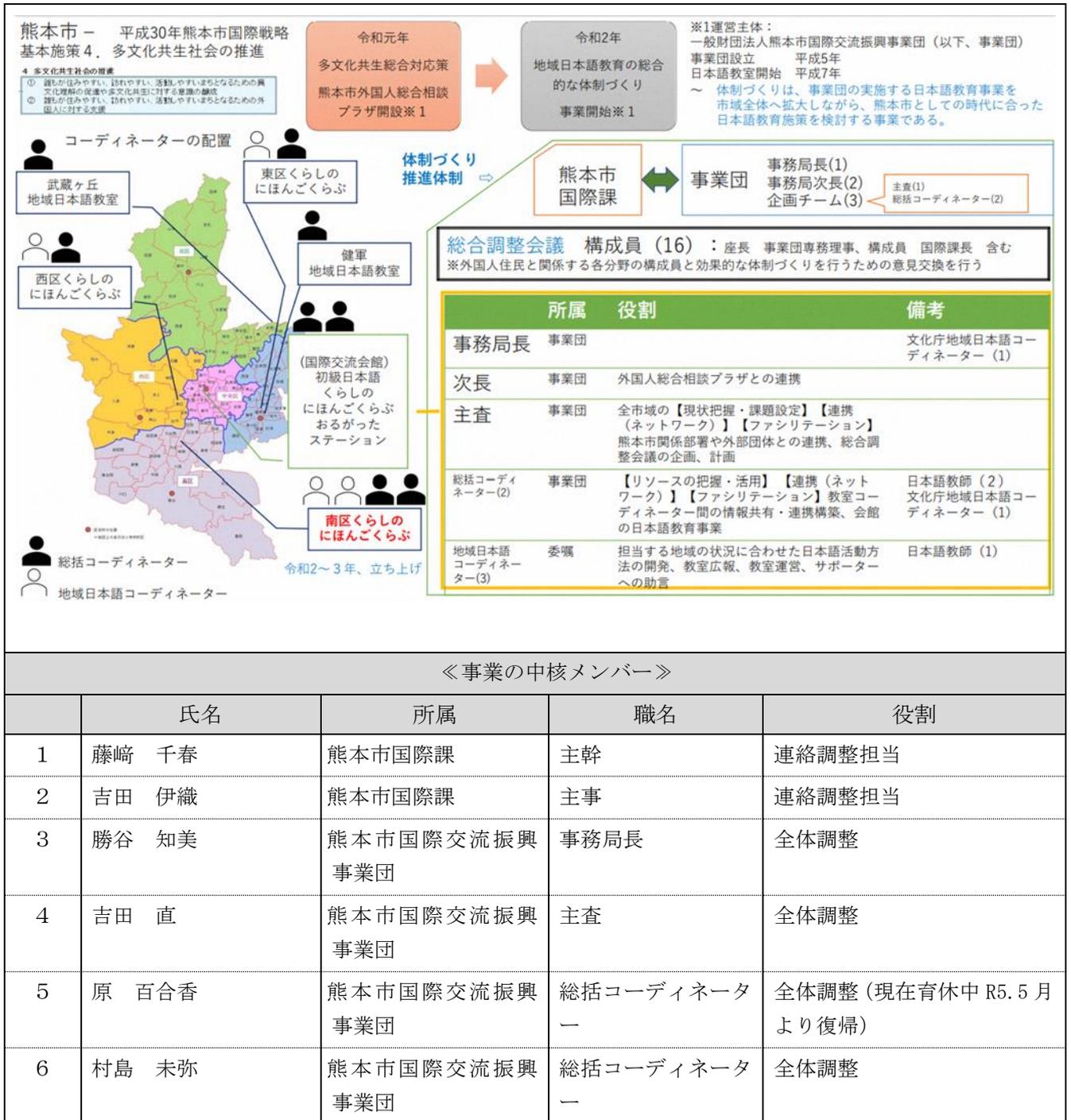
最終評価を行い、継続的・安定的な地域日本語教育実施体制の構築を目指す。

⑤令和5年度の実施内容

- ・地域住民・外国人材受入企業向け「やさしい日本語」講座の実施
校区自治会、中小企業連合会、熊本商工会議所、各区まちづくりセンター等と連携し、地域住民や外国人材受入企業等向けに「やさしい日本語」講座等を開催し、外国人とのより円滑なコミュニケーションスキルの向上を図る。
- ・日本語ニーズの多様化に対応した日本語教室の実施
外国人住民の日本語学習に関するニーズに合わせて、新たな地域日本語教室開設、Zoom 等を活用したオンラインにほんご教室の拡充、独学できるオンデマンド教材情報等の情報収集・配信強化について検討する。
- ・大学等教育機関、日本語教育専門家、NPO、外国人材受入企業、行政との連携強化
令和3年度に開設した熊本にほんご教育プラザを中心に関係団体との情報交換、意見交換を行い、連携強化を図る。

3 事業の実施体制

(1) 実施体制(図表等を活用して、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーター、調査計画推進コーディネーターを含めて記載してください。)



(2) 域内の市区町村、関連団体等との連携・協力体制

--

4 令和5年度の実施内容

(1) 実施内容

1. 広域での総合的な体制づくり				
【必須項目】				
(取組①) 総合調整会議の設置				
①構成員				
	氏名	所属	職名	役割
1	秋葉 多佳子	熊本県立大学	文学部日本語日本文学科・准教授	取組評価、大学との連携（日本語教育を研究している学生との共同研究）、助言
2	岩瀬 修	熊本商工会議所	経営支援部次長/国際室長	外国人労働者を受け入れる商工分野のニーズ、動向の事業への反映、助言
3	福田 衣都子	熊本市教育委員会	指導課長	日本語指導を受ける児童・生徒支援等情報提供、助言
4	カーク マスデン	熊本学園大学	経済学部・准教授/ kumamoto-I 代表	外国人住民の視点から意見・提案、助言
5	金子 秀聡	熊本日日新聞社	編集局 編集専門委員	マスコミ関係への日本語教育関連情報の提供・発信、マスコミとしての助言
6	柴田 治穂	黒髪小学校	校長	熊本市の日本語教育センター校として支援・情報提供、助言
7	竹村 朋子	NPO 法人外国から来た子ども支援ネット	代表	児童・生徒向けの日本語教育支援関連の情報提供、助言
8	田代 クリスティーナ	熊本外国人妻の会	会長	外国人住民の視点からの意見・提案、助言
9	鳥崎 一郎	大江校区社会福祉協議会 熊本市全校区社会福祉協議会連絡協議会	会長/事務局長	校区、自治会における日本語教育体制の広がりに関する助言
10	野口 高裕	(株)マイスティア	新事業創造室マネージャー	日本での就労を目指す外国人住民のニーズ把握、情報提供、助言
11	畠山 真一	尚綱大学	文化コミュニケーション	取組評価、大学との連携（日本語

			ン学科教授	教育を研究している学生との共同研究)、助言
12	道本 ゆう子		非常勤講師	取組評価、やさしい日本語の普及・拡大、助言
13	宮本 茂生	熊本大学留学生就職推進室	特定事業教員	取組評価、留学生の日本語教育ニーズ等情報提供、助言
14	園田 雅淑	熊本県中小企業団体中央会	連携支援部工業振興課課長補佐	技能実習、特定技能など外国人労働者のニーズ、管理団体におけるニーズの情報提供、助言
15				

②実施結果

実施回数	2回
実施スケジュール	第1回：令和5年12月21日（木） 14：00～16：00 第2回：令和6年 3月22日（金） 14：00～16：00
主な検討項目	・事業実施状況報告 ・令和5年度日本語教育関連事業報告 ・令和6年度事業申請内容等説明

（取組②-1）総括コーディネーターの配置

- ・2名を熊本にほんご教育プラザに配置した。
- ・地域日本語教室の運営管理および本事業の実施にかかる業務全般を担った。
- ・熊本にほんご教育プラザを開設・運営し、多様化する外国人住民のニーズに合わせた生活に必要な日本語習得機会や、日本語学習方法等の情報提供を行った。
- ・地域日本語教育コーディネーターと随時、情報交換を行い、地域日本語教室等の現状把握と課題解決、効果的・効果的な地域日本語教室運営に努めた。
- ・総括コーディネーターと地域日本語教育コーディネーターが参加し、地域日本語教室の現状や情報共有、課題解決などを話し合う地域日本語教室コーディネーター会議を年2回開催した。

（取組②-2）地域日本語教育コーディネーターの配置に向けた取組

地域日本語教育コーディネーターの配置【(○)】

地域日本語教育コーディネーターの候補者育成支援【()】

- ・地域日本語教育コーディネーターを3名配置し、日本語教室のコーディネートや日本語教室の広報業務を行った。
- ・地域日本語教室コーディネーター会議を下記のとおり2回開催し、各区地域日本語教室間の情報交換や各地域日本語教室の課題解決に向けた協議などを行った。

第1回目

開催日時：令和5年7月16日（日）12：00～13：00

開催場所：熊本市国際交流会館 2階ミーティング室

議 題：

昨年度の振り返り及び現状報告、各日本語教室の実施状況
今年度の日本語教育関係事業計画
来年度以降の地域日本語教育コーディネーター配置について

第2回目

開催日時：令和6年2月28日（水）13：00～14：00

開催場所：熊本市国際交流会館 2階ミーティング室

議 題：

昨年度の振り返り及び現状報告、各日本語教室の実施状況

今年度の日本語教育関係事業計画

来年度の西区・南区の運営について

来年度以降の地域日本語教育コーディネーター配置について

（取組②－3）調査・推進計画策定コーディネーターの配置

【取組なし】

【重点項目】

（取組③）日本語教育に関する基本的な方針に必要な地域の実態調査、基本的な方針の作成

【取組なし】

（取組④）都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組

【取組なし】

<p>(取組⑤) 市区町村への意識啓発のための取組</p>
<p>【取組なし】</p>
<p>(取組⑥) 日本語教育人材に対する研修</p>
<p>日本語教育等を専攻する大学生インターンシップ受け入れを行い、地域日本語教育を学ぶ学生に実践の場を提供した。</p> <p>短期インターン 4人（尚綱大学 現代文化学部 文化コミュニケーション学科 2年生） 受入れ期間：令和 5年8月22日（火）～9月5日（火）内 3日間</p> <p>短期インターン 3人（尚綱大学 現代文化学部 文化コミュニケーション学科 3年生） 受入れ期間：令和 5年8月22日（火）～8月26日（土） 5日間</p> <p>長期インターン 1人（尚綱大学 現代文化学部 文化コミュニケーション学科 2年生） 受入れ期間：令和 6年2月10日（土）～2月28日（水）内 14日</p> <p>日本語学習支援に関わるボランティアが新たな知識習得や新たな視点が得られるよう、全教室で活動するボランティアを対象に生活日本語支援ボランティア研修会を実施した。</p> <p>また、地域日本語教室で活動されているサポーターのうち、希望者を対象に、地域日本語教室での教室デザイン、運営・管理ノウハウやコーディネート業務を学ぶスキルアップ研修会を開催した。</p> <p>講座名：くらしのほんごくらぶボランティアオリエンテーション 開催日時：令和5年6月4日（日）14：00～15：00 開催場所：熊本市国際交流会館 2階交流ラウンジ 内 容：熊本市の状況、くらしのほんごくらぶについて、年間予定等 参加者数：28人</p> <p>講座名：くらしのほんごくらぶボランティア募集説明会 開催日時：令和5年7月23日（日）13：00～14：00 開催場所：熊本市国際交流会館 3階国際会議室 内 容：くらしのほんごくらぶ、地域日本語教室について</p>

参加者数：11人

講座名：全教室合同生活日本語支援ボランティア研修会

開催日時：令和5年9月24日（日）10：00～12：00

開催場所：熊本市国際交流会館 5階大広間A・B

内容：生活日本語支援ボランティアに必要な基礎的知識や、活動の役に立つ情報など

講師：山川 仁子 氏（尚絅大学 現代文化学部 文化コミュニケーション学科 准教授）

参加者数：43人

講座名：新規北区日本語教室

新たに新規開設した北区日本語教室で活動するボランティア募集説明会及びボランティア養成講座を開催した。

【ボランティア募集説明会】

開催日時：令和6年1月26日（金） 10：00～11：30

参加者数：31名

【ボランティア養成講座①】

開催日時：令和6年2月2日（金） 10：00～11：30

参加者数：25名

【ボランティア養成講座②】

開催日時：令和6年2月16日（金） 10：00～11：30

参加者数：27名

【ボランティア養成講座③】

開催日時：令和6年3月1日（金） 10：00～11：30

参加者数：23名

講座名：多文化共生シンポジウム

開催日時：令和6年3月23日（土）14：00～16：30

開催場所：熊本市国際交流会館 2階交流ラウンジ

内容：

【前半】地域と在住外国人が協働で取り組む魅力ある地域づくり（基調講演）

講師：【前半】黒岩 春地 氏 公益財団法人佐賀県国際交流協会 理事長

【後半】在住外国人も地域の担い手となる多文化共生社会

パネリスト：黒岩 春地 氏（公益財団法人佐賀県国際交流協会 理事長）

一木 和彦 氏（大江校区自治協議会会長）

楊軍 氏（中国コミュニティ代表）

パンデ キルスナ 氏（熊本ネパール人協会 会長）

参加者数： 46 人（内にほんごボランティア 16 人）			
(取組⑦) 地域日本語教育の実施 実施するものに○ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 都道府県・政令指定都市が主催する地域日本語教育 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 日本語教育実施機関団体等への地域日本語教育			
実施箇所見込数	12 箇所	受講者数 (実人数)	454 人
活動 1	<p>【名称】 はじめてのほんご【既設】</p> <p>【目標】 日本語を学んだことがない外国人住民が初級文法を日本語教師から学び、生活に必要な日本語を習得するとともに、地域日本語教室への橋渡しを行う。</p> <p>【実施回数】 44 回/年（1 回 2 時間）</p> <p>【受講者数】 23 人</p> <p>【実施場所】 熊本市国際交流会館</p> <p>【受講者募集方法】 ホームページ、facebook、市政だより、各日本語教室等</p> <p>【内容】 クラス形式で、1 日 2 時間 1 課ずつ週 3 回学ぶコース。平日の午前中のみで開催で、子育て中の外国人住民も参加しやすいコースとした。教えるのは、有資格者の日本語教師のみで、初級文法を教えるとともに、生活に必要な日本語も学べる内容とした。基本的に授業は直接法で行い、参加者の学習レベルや在留資格・国籍等にかかわらず、誰でも楽しく日本語を学べる入口となるような講座とした。</p> <p>【開始した月】 令和 5 年 7 月～・令和 5 年 10 月～</p> <p>【講師】 6 人（うち、日本語教師 6 人）</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p>		
活動 2	<p>【名称】 はじめてのほんご 2【新設】</p> <p>【目標】 A1 レベル程度の学習者を対象に初級へのステップアップをおこなう。</p> <p>【実施回数】 22 回/年（1 回 2 時間）</p> <p>【受講者数】 16 人</p> <p>【実施場所】 熊本市国際交流会館</p> <p>【受講者募集方法】 ホームページ、facebook、市政だより、各日本語教室等</p> <p>【内容】 クラス形式で、1 日 2 時間 1 課ずつ週 3 回学ぶコース。平日の午前中のみで開催で、子育て中の外国人住民も参加しやすいコースとした。教えるのは、有資格者の日本語教師のみ。B1 を目指すプログラムの最初の 1 歩として、これまで行っていた「はじめてのほんご」ステップアップコースを開催した。</p>		

	<p>【開始した月】 令和6年2月～</p> <p>【講師】 6人（うち、日本語教師 6人）</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p>
活動3	<p>【名称】 暮らしのほんごくらぶ【既設】</p> <p>【目標】 市民ボランティアとともに生活に必要な日本語を学ぶ。外国人住民が日本人や地域社会とつながる場所、“居場所づくり”も目的とし、多文化共生社会の拠点となる教室を運営した。</p> <p>【実施回数】 149回/年（1回2時間）*3月20日の分まで</p> <p>【受講者数】 246人※3月20日まで</p> <p>【実施場所】 熊本市国際交流会館 2階交流ラウンジ</p> <p>【受講者募集方法】 ホームページ、facebook等</p> <p>【内容】 ボランティアと1対1又はグループで生活に必要な日本語を学ぶ会話学習を行った。ボランティアには、学習者のニーズに合わせペア（グループ）ごとに活動内容を考えてもらった。会話を通して日本の文化や習慣を学び、日本での生活をより豊かにできるよう、「熊本市外国人総合相談プラザ」と連携して支援を行った。</p> <p>【ボランティア】 111人</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p>
活動4	<p>【名称】 東区健軍地域日本語教室【既設】</p> <p>【実施回数】 36回/年（1回1.5時間）</p> <p>【受講者数】 5人</p> <p>【実施場所】 健軍商店街内「よって館ね」</p> <p>【受講者募集方法】 ホームページ、facebook等</p> <p>【内容】 ボランティアと1対1もしくはグループで生活に必要な日本語を学ぶ会話学習を行った。ボランティアには、学習者のニーズに合わせペア（グループ）ごとに活動内容を考えてもらい、学習者が持参したテキストやレアリア（チラシ、配布物）などを使って学習を行った。</p> <p>【ボランティア】 4人</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p>
活動5	<p>【名称】 東区暮らしのほんごくらぶ【既設】</p> <p>【実施回数】 23回/年（1回1.5時間）</p> <p>【受講者数】 28人</p> <p>【実施場所】 東部公民館、熊本市動植物園、健軍神社</p> <p>【受講者募集方法】 ホームページ、facebook等</p> <p>【内容】 ボランティアである日本語交流サポーターとの会話を通して、日本語を学べる場を提供した。東区に住む外国人を対象に、生活に密着したテーマで地域日本語教室コーディネーターがハンドアウトを作成、写真やパンフレットなど資料を用いた対話型の学習活動を行った。またテーマに合わせた市販テキストの活用や日本文化体験等、参加者自身が</p>

	<p>体験することにより生きた日本語のコミュニケーションを学べる機会を設けた。日本文化体験や季節の行事開催に際して、日本語で解説した資料を活用した読解や新しい語彙の習得等の機会を設けた。活動後は参加者に記録シートや他の参加者へのメッセージを書いてもらうことで、日本語の読み書き力を養う取組を行った。文化体験として健軍神社へ初詣を行った。</p> <p>【ボランティア】15人</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p>
活動6	<p>【名称】西区くらしのほんごくらぶ【既設】</p> <p>【実施回数】24回/年（1回1.5時間）</p> <p>【受講者数】7人</p> <p>【実施場所】熊本市国際交流会 2階交流ラウンジ、北岡神社</p> <p>【受講者募集方法】ホームページ、facebook、チラシ配布等</p> <p>【内容】ボランティアである日本語交流サポーターと会話を通して日本語を学べる場を提供した。西区に住む外国人を対象に、生活に密着した内容でコミュニケーションに重点をおいた日本語学習を行った。レクリエーションや文化体験等、学習者が楽しんで参加できる内容を企画した。日本文化（初詣など）を参加者自身が体験することで、生きた日本語のコミュニケーションを学べる機会を設けた。日本文化体験や季節の行事開催に際して、日本語で解説した資料を活用した読解や新しい語彙の習得等の機会を設けた。活動後は参加者に記録シートを書いてもらうことで、日本語の読み書きの力を養う取組を行った。</p> <p>【ボランティア】4人</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり</p>
活動7	<p>【名称】南区くらしのほんごくらぶ【既設】</p> <p>【実施回数】23回/年（1回1.5時間）</p> <p>【受講者数】13人</p> <p>【実施場所】南部公民館、河尻神宮、くまもと工芸会館他</p> <p>【受講者募集方法】ホームページ、facebook、チラシ配布等</p> <p>【内容】ボランティアである日本語交流サポーターと会話を通して日本語を学べる場を提供した。南区に住む外国人を対象に、生活に密着した内容でコミュニケーションに重点をおいた日本語学習を行った。レクリエーションや文化体験も取り入れ、楽しんで参加できる内容を企画した。日本文化体験や季節の行事開催に際して、日本語で解説した資料を活用した読解や新しい語彙の習得等の機会を設けた。活動後は参加者に記録シートを書いてもらうことで、日本語の読み書きの力を養った。</p> <p>教室活動については、コーディネーターが各回のプログラムや教材を作成し、活動の進行やサポーターへのアドバイスなどを行った。</p> <p>【ボランティア】4人</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり</p>

活動 8	<p>【名称】北区武蔵ヶ丘地域日本語教室【既設】</p> <p>【実施回数】42回/年（1回1.5時間）</p> <p>【受講者数】44人</p> <p>【実施場所】菊陽町西部町民センター</p> <p>【受講者募集方法】ホームページ、facebook、チラシ配布等</p> <p>【内容】北区に住む外国人を対象に、ボランティアによる日本語学習支援を行った。ペアやグループごとに、外国人のニーズに合わせて学習活動を行った。日本文化体験等も取り入れ、実体験を通じた日本語のコミュニケーション能力の向上を図った。自治体の出前講座等を活用し、交通安全の情報や生活に必要な情報、日本語を学ぶ機会を提供した。運営は、外国人参加者リーダーとボランティア代表と協力して行った。</p> <p>【ボランティア】24人</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p>
活動 9	<p>【名称】北区くらしのにはんごくらぶ【新設】</p> <p>【実施回数】2回/年（1回1.5時間）</p> <p>【受講者数】10人※3月15日まで</p> <p>【実施場所】龍田公民館</p> <p>【受講者募集方法】ホームページ、facebook、チラシ配布等</p> <p>【内容】北区に住む在住外国人が増加したことにより、今年3月15日に新規開設。ペアやグループごとに、外国人のニーズに合わせて、ボランティアによる日本語学習支援を行った。今後は日本文化体験や交流会等も取り入れた活動を行っていく予定。</p> <p>【ボランティア】27人</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p>
活動 10	<p>【名称】オンラインおしゃべり会【既設】</p> <p>【実施回数】24回/年（1回1.5時間）</p> <p>【受講者数】22人</p> <p>【実施場所】熊本市国際交流会館内より Zoom で発信、参加者は自宅から参加。</p> <p>【受講者募集方法】ホームページ、facebook、チラシ配布等</p> <p>【内容】その日のトピックについて少人数に分かれ、会話を通して日本語を学ぶ。(zoomのブレイクアウトルームを使用)大学生、総括コーディネーター等の協力を得て実施した。</p> <p>【講師】ボランティア 19人</p> <p>【関係機関との連携】外国人総合相談プラザ、外国人コミュニティ、熊本県立大学</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p>
活動 11	<p>【名称】おるがったステーション（外国ルーツの子ども居場所づくり）【既設】</p> <p>【実施回数】毎週日曜日（4時間）</p> <p>【受講者数】21人</p> <p>【実施場所】熊本市国際交流会館</p>

	<p>【受講者募集方法】 ホームページ、facebook、チラシ配布等</p> <p>【内容】 外国にルーツを持つ子どもたちを対象とした日本語支援及び子どもたちの居場所づくり。日本語能力の問題から、小学校、中学校の授業についていけない子どもたちが集まり、教職経験のあるボランティア、日本語教授法を学ぶ学生ボランティアによる日本語指導を行った。来日直後の子どもたちには、日本語の初期指導を行い、初期指導が終了している子どもたちには、生活言語の指導を行った。</p> <p>子どもたちにとって教科書に出てくる日本語は普段使用しない表現もあり、生活言語とのギャップに困惑する可能性がある。そこで、生活言語を主体としつつ、教科書に出てくる言い回しの異なる日本語と関連させて教えることで理解を深めた。</p> <p>【講師】 ボランティア 31 人</p> <p>【関係機関との連携】 熊本・外国ルーツの子ども支援連絡協議会</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p>
活動 1 2	<p>【名称】 おるがったキッズ（外国ルーツの子ども居場所づくり）【既設】</p> <p>【実施回数】 毎月第 2・4 日曜日（2 時間）※令和 5 年 8 月より第 2 日曜日も開始</p> <p>【受講者数】 19 人</p> <p>【実施場所】 熊本市国際交流会館</p> <p>【受講者募集方法】 ホームページ、facebook、チラシ配布等</p> <p>【内容】 外国にルーツを持つ就学前児童から小学 2 年生を対象とした生活支援、日本語支援及び子どもたちの居場所づくり。熊本県立大学、NPO 法人外国から来た子ども支援ネットくまもとと協力し、日本語教授法を学ぶ学生ボランティアによる日本語指導を行った。工作等を取り入れ、楽しく日本での生活に必要な日本語を学ぶことができる工夫を行った。</p> <p>【講師】 ボランティア 13 人</p> <p>【関係機関との連携】 熊本県立大学・熊本保健科学大学・NPO 法人外国から来た子ども支援ネットくまもと</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：なし</p>
(取組⑧～⑮) その他の取組	
2. 市区町村の日本語教育の取組への支援	
(取組①) 市区町村を支援して実施する日本語教育	
【取組事例なし】	

(取組②) 取組1以外の日本語教育を行う団体を支援して実施する日本語教育
【取組事例なし】

5 主要な取組の実施状況

令和5年4月	委託契約締結（4/1） 下旬 補助金交付決定
5月	インターン受入説明会開催
6月	合同日本語支援ボランティア向け研修会
7月	地域日本語教育コーディネーター情報交換会・はじめてのにほんご
8月	地域向けやさしい日本語研修
9月	ボランティア向けスキルアップ研修
10月	はじめてのにほんご
11月	
12月	総合調整会議 地域向けやさしい日本語研修
令和6年1月	
2月	北区日本語教室ボランティア養成講座・はじめてのにほんご2【新規】
3月	北区日本語教室開始【新規】 総合調整会議 事業終了 実績報告書の提出

6 評価と検証

1. 令和5年度の計画の評価と検証方法
【令和5年度の目標】（再掲） 最終評価を行い、継続的・安定的な地域日本語教育実施体制の構築を目指す。

【令和5年度の目標達成に向けた指標（定量評価・定性評価を含む。）】

【指標1：定量評価目標】

日本語支援事業参加者（学習者）数

○目標値 実数 500 人 （令和5年度参加者数：454人） （令和4年度 310人）

【指標2：定量評価目標】

地域日本語教育ボランティア登録数

○目標値 実数 190 人 （令和5年度ボランティア登録者数：252人）（令和4年度 157人）

【指標3：定性評価目標】

日本語学習者の満足度

○目標値 約70%が満足している（令和5年度： 約75%が満足）

（令和4年度： 約70%が満足している。）

【検証方法】

○指標1については目標値を下回ったが、昨年度比では154人増加した。

○指標2については、積極的に募集活動等を行い、目標値を大幅に上回るボランティアに活動していただいた。

○指標3については、日本語学習者へアンケート調査を行い、回答を得た。

【その他】

2. その他、令和5年度事業の評価と検証方法

【各取組の指標及び検証方法（定量評価・定性評価）】

【取組②ー1】総括コーディネーターの配置

（定量評価）熊本にほんご教育プラザで受けた日本語関係相談件数

今年度目標 300 件 （前年度実績：278件（令和4年度））

令和5年度相談件数：718件（3月25日現在）

相談件数では日本語教室への参加方法、日本語学校、地域日本語教室情報関連の問合せが一番多く、60%程度を占めた。JLPT等日本語資格試験の問い合わせ、それに伴う学習方法の相談も増加した。

学習者の在留資格別でみると、本年度はTSMC関連で家族滞在の増加が顕著であった。技能実習、技術・人文知識・国際業務、特定技能、留学生の登録も増加した。ホームページ・SNS等で動画による日本語学習者紹介や熊本にほんご教育プラザの活動紹介を行い、広く広報に努めた結果相談件数等大幅に増加したと思われる。

7 検証を踏まえた課題と今後の展望

<h3>1. 検証を踏まえた課題と今後の展望</h3>
<p>(1) 検証を踏まえた課題</p> <p>令和2年度、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けたが、令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響は減少し、日本語教育事業への参加者数は増加に転じている。令和3年度に開設した熊本にはんご教育プラザを中心に熊本市内に限らず、熊本県内外の日本語教育情報収集配信、大学等教育機関との連携強化に努め、日本語教育に関する相談件数は大幅に増加した。</p> <p>令和5年度に入り、在住外国人数、日本語学習希望者が大幅に増加しており、にはんご教育プラザにおける日本語教育に関する相談も内容が多様化しており、今後、増々相談対応に従事する職員の専門性向上、外部専門家との連携が重要となると考える。</p> <p>また、多様化する日本語学習ニーズに対応できる様、地域にあったローカライズされた教材、カリキュラムを検討する為に日本語教育専門家と連携・協力し、目指すべき方向性の検討が必要と考える。</p> <p>また外国人住民を受け入れる地域、行政、外国人材受入れ企業等への「やさしい日本語」活用の普及啓発を継続し、「やさしい日本語」活用の普及促進が必要。</p> <p>(2) 今後の展望</p> <p>今後、熊本市の在住外国人増加に対応できるよう、前年度までに構築した地域日本語教育推進の総合的な体制の更なる基盤強化を目指す。日本語教育参照枠、生活 can-do を活用し、地域の実情にあわせ、ローカライズされた教材作成、カリキュラム作成等にアドバイス等をいただく、日本語教育専門家が参加するワーキンググループ「くまもと日本語教育ネットワーク」(仮称)を運営し、更なる日本語教育事業の充実及び次年度以降の事業計画等検討を行う。また、熊本市の各地域まちづくりセンター、校区自治会等と連携し、「やさしい日本語」の地域への更なる普及を目指す。</p>
<h3>2. その他、課題と困難な状況への対応方法等</h3>
<p>(1) 課題と困難な状況への対応方法</p> <ul style="list-style-type: none">・熊本にはんご教育プラザにて、熊本県内の日本語教室、語学学校情報や、個人参加が可能な多文化共生・日本語教育関係の可能なシンポジウム、講演会等の収集・発信強化、相談 体制強化に努めた。・NPO 法人外国から来た子ども支援ネットくまもとや、熊本県立大学、熊本保健科学大学と協力し、外国ルーツの子ども達の居場所づくりも兼ねた就学前児童等を対象とした日本教室として「おるがったキッズ」を月2回の開催へ変更した。・地域日本語教室活動を担うボランティア向けスキル アップ研修等を開催し、地域日本語教育に関わる人材育成、日本語教育のスキル向上を行った。・TSMC 進出により外国人住民の増加が著しい北区に新たな地域日本語教室を令和6年3月に新規開設した。

【参考写真一覧】

取組番号	写真名
1-④-1	くらしのほんごくらぶ



1-⑤-1	はじめてのほんご
-------	----------



1-⑥-1

書道体験（西区）



2-①-1

北区日本語教室ボランティア養成講座

